（第３種郵便物認可）

大宮 打撃戦制しV

リトルシニア

フレッシュマン大会＞日本リトルシニア北関東支部フレッシュマン大会（1年生大会）は17、18の両日、越谷シニアグラウンドなどで争々決勝から決勝までが行われ、大宮が所沢南Aとの打撃戦を10－8で制し、優勝した。大宮の支部大会制覇は、2003年の夏季大会以来。

大宮は準決勝で加須との接戦を2－1でものにすると、決勝では14安打に6犠打を絡めるそつのない攻撃で10得点。終盤、所沢南Aの反撃に遭うが、最後は踏みとどまった。

所沢南Aは準決勝で越谷Bに10－4で快勝したが決勝では、11安打で8点を挙げるもあと一歩及ばず。夏季大会に続く支部タイトル奪取はならなかった。

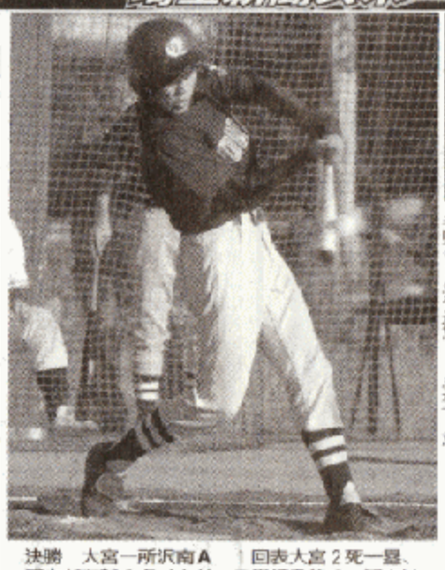
＞決勝

大宮	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
所沢南A	0	0	0	0	1	5	0	0	4	10

◎…激しく点を取り合った一戦は、大宮が所沢南Aの猛追を振り切った。

大宮は一回、無死満塁から、浦本の右前打で先制。さらに高橋亮の左翼線への3点適時二塁打などで、打者11人を送り込み、挙げた点を奪った。続く二回、清水の犠飛と高橋亮のスクイズで三塁から2点を追加。1点差に詰め寄られた七回には、佐藤の中前適時打で流れを取り戻すと、最後は3番手の窪木が所沢南Aを3人で封じ込めた。

所沢南Aは9点差から、六回に5点を挙げ、1点差まで追る驚異的な粘りを見せたが、あと一歩及ばなかった。



決勝　大宮―所沢南A　1回表大宮2死一塁、浦本が左越えタイムリー二塁打を放つ。浦本は決勝で4安打の活躍

優勝した大宮

多彩で堅実な攻撃

大宮の攻撃は積極的で多彩、そして堅実だった。所沢南Aに終盤追い上げられたが、序盤の大量得点が効き、栄冠を手にした。

指揮を執った川崎監督代行は「2、3点差で勝るとは思っていたが、ここまでの展開になるとは。それでも全員で戦う姿勢があった」と一丸の勝利を喜んだ。

「一回にいきなり本領を発揮した。1点を先制後、一死満塁で打席には気持良くしてあげたかった」と送球ミスが左翼線に走者一掃のタイムリー二塁打と打撃強さを発揮。後続も続き一挙4得点。

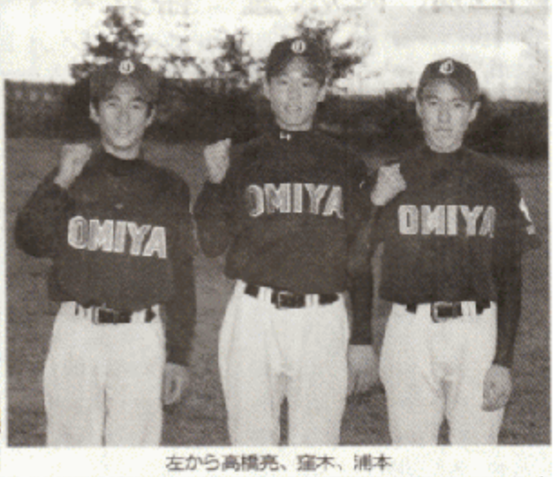
鮮やかな得点劇の中に、補打のうまさが光った。初回に補打を試みた4人全員が一球で成功。攻撃にリズムを生み、敵失や内野安打を呼び込んだ。「細かい野球で1点を取る練習をしている」と川崎監督代行。

六回に所沢南Aに5点を奪われ、なお二死三塁。ここで大宮はエース・浦本をマウンドへ。1点を許したが「打者だけに集中して、打たせろ」と送り出すと、後続を断ち切りピンチをしのぐと、七回は3人できっちり締めた。川崎監督代行は「慎重に攻め寄られて重圧がかかったが、選手たちには良い勉強になった」と振り返る。

1年生チームにとって初めての支部公式戦。相手ベンチや応援団の声援、球一打の緊迫感、勝利への執念。初めて体験する公式戦で大宮の選手たちは精神的にたくましくなっていった。準決勝から打席連続で出塁し、チームを引っ張った主将の浦本は「勝っていく中で自信がついた。決勝ではすべておいて力を発揮できた」と話した。

「1年生の姿を見て、2年生が奮起してほしい」と川崎監督代行。この日の試合に駆けつけた先輩たちとともに、大宮は1999年以来の日本選手権出場を目指す。（丹羽真子）

川崎監督代行



左から高橋亮、窪木、浦本

所沢南A、11安打で快勝

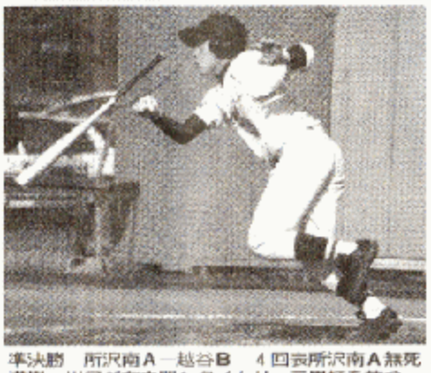
＞準決勝

所沢南A	1	3	3	0	1	1	0	0	1	10
越谷B	0	0	0	0	0	0	2	0	1	4

◎…11安打で五番を務めた母里海音主将が2安打3打点と快調に打線を引っ張った所沢南Aが越谷Bに快勝した。

一回、押し出しで先制した所沢南Aは二回、死球の後、三塁打と2四球で3点を追加。さらに四回、川口の走者一掃の適時二塁打で3点を加え、試合を決めた。先発の川口は、走者を出すものの要所を締め、四回まで無失点。後半、越谷Bの追撃に遭ったが、試合の流れを変えるまでには至らなかった。

母里海音主将は「打撃は好調だったが、守備のミスが出てしまった。次の大会では優勝したい。」



準決勝　所沢南A―越谷B　4回表所沢南A無死満塁、川口が右中間へタイムリー三塁打を放つ

良いゲームできた

所沢南A・武藤信介監督の話　選手は力以上のものを出してくれた。（決勝の）初回にミスが出たが、最終的に8－10までよく追い上げた。（1年生に）良い経験ができた。来年は北関東で優勝し、関東大会に出たい。

みんなに感謝

所沢南A・遠崎航主将の話　悔しいが、あの1点からよく追い上げた。すべてにおいて力を出せた。みんなに感謝している。この悔しさを忘れずに、冬は練習トレーニングにしっかり取り組み、来年に向けて頑張っていきたい。

次の大会では優勝

越谷B・山中隼人主将の話　（投手が）ストライクが入らなかったのが敗因。投手が安定してくれた。ただ1点が出ると、守備が落ち着かなくなってしまった。試合のための練習をしていき、次の大会では優勝したい。

全国大会が目標

加須・田中翔太二塁手の話　最後まであきらめず戦えたが、チャンスで打てなかった。接戦の中で声を出し、良い試合ができた。どんな時でも声が出、一人一人が自分の役割をプレーできるチームを目指す。全国大会出場が目標。

選手に良い経験

越谷B・池田陸雲監督の話　投手を中心にしっかりと守備を固めることができた。大会を通して一点を守る野球を心がけてきた。選手たちには良い経験になった。今回で勝てなかったチームを目指し、しっかりと指導していきたい。

大宮・窪木が完封勝利

＞準決勝

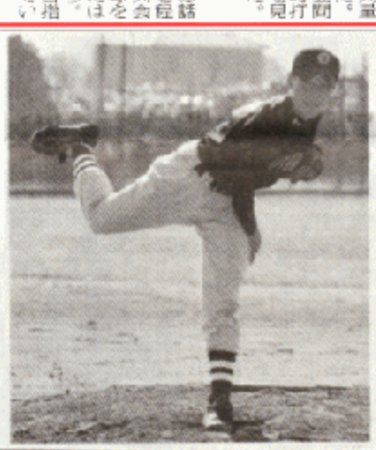
加須	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大宮	0	0	0	0	0	0	0	1	×	1

大宮は四回、先頭の浦本が左越え二塁打で出塁し、佐藤の犠打で三進。次打者の左翼への飛球で生還し、均衡を破った。六回には、中前打の浦本を先頭が再び送り、重盗で好機を広げると、高橋亮が左前適時打を放ち、貴重な1点を加えた。窪木は散発5安打の好投で、加須を完封した。

加須は、一、二回をはじめ、4度得点圏にまで走者を進めたが、あと一本が出ず、力尽きる二回に戻ることができなかった。

冬場には基礎を

加須・野口剛監督の話　うまくいけば勝てる試合だったので、残念。子どもたちはよく頑張った。この経験をばねに、冬場には基礎に取り組み、3年生になったら、今回大会に出られるようなチームになってほしい。



準決勝　加須―大宮　完封した大宮の窪木

大宮の浦本主将から花束を手渡される川崎氏（右）

川崎審判員が引退

今後は後任の指導へ

今大会で北関東支部付審判員を引退する川崎正審判員（三芳）の引退式が決勝で行われ、大宮の浦本主将から花束が手渡されると、選手や応援席から盛大な拍手が送られた。

川崎氏は、17年間にわたり同支部付審判員を務め、関東大会や日本選手権など各大会を担当してきた。「今後、ご後任の指導に当たる川崎氏は一つのジャッジで試合を左右することがある。常に自分で調べる習慣を持って取り組んでほしい」と話した。

（第３種郵便物認可）